

渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会（第5回） 会議録

1 日時

令和元年10月8日（火） 午後3時から4時30分まで

2 場所

東三河総合庁舎 301 会議室

3 出席者

渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 構成員

4 会議内容

(1) 開会

(2) あいさつ（農業水産局 農政部 農業振興課 長谷川課長）

皆さんもご承知のとおり、関東地方でも豚コレラの発生が確認されており、10府県に拡大している。一方、愛知県では16例目の発生以降一か月間発生しておらず、今月1日に県内の養豚業者の移動制限が解除された。ただし、野生イノシシの豚コレラは引き続き発生しており、最近では設楽でも陽性個体が確認されている。拡散のスピードは遅くなっているが、少しずつ感染エリアが拡大している状況である。

国では、豚への豚コレラワクチンの接種を決定したところだが、接種により、すべての豚が抗体を獲得する訳ではなく、今後費用も含めて県の担当課で対応を検討していく。

渥美半島における9月末までの野生イノシシ捕獲実績は、前年比約150%となっており、猟友会をはじめとする関係者の皆様のご協力に感謝する。

本日は次第にもあるとおり、渥美半島の野生イノシシ生息状況調査結果について、岐阜大学の池田先生からご説明いただくことになっている。

この地域及び県内の養豚業者を守るため、今後も皆様の力をお借りしたい。

(3) 議事（議長：農業振興課 長谷川課長）

① 野生イノシシ捕獲目撃状況について

- ・ 資料1、参考資料1に基づき事務局から説明。

【質疑・意見等】

なし

② 渥美半島野生イノシシ移動防止柵の設置について

- ・ 資料2に基づき事務局から説明

【質疑・意見等】

(田原市猟友会) 赤羽根漁港付近に設置予定の柵について、設置する位置が変更されており、その場所は過去にゴミを埋設していたが、柵の設置に問題はないか。東側へずらした方が良いのではないか。

(愛知県) 地元の要望により現在の位置へ変更したものであるが、貴重な情報である。現地も確認し、対応を検討することとする。

(田原市猟友会) 柵の設置に関する地元への回覧文書の資料の中で、業者名が記載されたものがあつた。望ましいものではない。

(愛知県) 配慮が足りなかつたため、今後注意させていただく。

(JA 豊橋) 柵の位置について、田原と豊橋で同程度の距離と思うが、田原が2区画とする一方で、豊橋市内を一つの区画としている理由は何か。

(愛知県) 基本は養豚を守るための考えから養豚農場の多いところや、緑地帯が狭く柵を設置しやすい場所などから、猟友会とも相談した結果である。ただ、これが最終形ではない。

③ 「渥美半島における生息状況調査について

- ・ 資料3に基づき池田特任助教から説明

【質疑・意見等】

なし

④ 捕獲手法の検討

- ・ 資料4、資料5に基づき事務局から説明。

【質疑・意見等】

(有識者) 蔵王山周辺は現状わなの設置数が少なく、重点的に捕獲を進めるとの事だが、猟友会の話でも生息が少ないとのことである。このため、まず調査をした上で捕獲地点を選択していくことが必要である。

(田原市猟友会) 渥美半島は、イノシシの餌となる植物等の状況によって、季節で生息位置が変化する。

(有識者) そういった情報を収集しながら、捕獲を進めるべきである。

(田原市猟友会) 捕獲従事者の縄張り意識の問題もある。

(有識者) 委託事業についても、捕獲と調査をセットとして進めることが必要である。縄張りもあつて難しいところもあるが、調査結果を基に捕獲場所等について地元猟友会とも調整しつつ進めていくのがよい。

(田原市猟友会) 生息状況は、水の環境(水の得やすさ)による影響も大きい。

(愛知県) 移動防止柵を置いて区画を切り、捕獲圧を高めて、根絶状態の区画を作っていきたい。わなの入れ方等の手法は、今後相談させていただく。併せて、地域ぐるみの捕獲として、捕獲補助者の活用も検討したいため、市役

所、JAさんにも相談させていただきたい。

(豊橋猟友会) ICTの活用とあるが、装置はかなり高価なのではないか。

(愛知県) 捕獲したことを無線で通知する機能をもった機器で、受信機と数台の発信機をセットとし、30,000円程度で販売している例もある

(豊橋猟友会) その購入費用を県が負担することが可能なのか。

(愛知県) 県事業として購入することを考えている。国の交付金制度の活用も検討している。導入場所については、移動防止柵を設置した豊橋市内の表浜樹林帯において、試験的に導入することを考えている。

(愛知県) 根絶を目指して捕獲強化をするためには、わなの設置台数を増やす必要がある。たとえば、大山内にくくりわなを500基導入する事は可能か。もし見回りが難しい様であれば、ICTを導入する等を検討する事で対応出来ないか。

(田原市猟友会) 難しい。そもそも大山内に入って行く道が無い。猟友会としても、とてもできない。現地を見てもらうと難しいことがわかるだろう。

(豊橋猟友会) 渥美半島は低木が多く、樹林内に入っていけない。これは近くにまで行かないと見えない。また、これだけのエリアに500基を入れる事は難しい。

(愛知県) 表浜海岸の緑地にわなをたくさんかけていくのはどうか。

(田原市猟友会) 効果的であると思うが、誰がどのようにかけるのかは疑問。

(豊橋猟友会) くくりわなは獣道を見つけ、そこにかける事が重要である。設置数は重要ではなく、大量のわなをかけても無駄が多くなる。

(愛知県) 今回は緊急で根絶を目指しているため、効率を考慮した通常のやり方に留めず、相当の数のわなを投入するしかないと考えている。そのため、地域で捕獲隊を構成して見回りをすることや、ICTの活用など、何とか可能とする方策がないか、皆さんの知恵をいただきたい。ご協力をお願いします。

(有識者) くくりわなは1頭ずつしか掛からず、一度掛かると警戒心を高めてしまう。このため、わなの配置とイノシシの誘因は重要である。ただし、それを実際にできる者は少ないと考えられ、それに合わせた基数となる。わな数を増やしただけ捕獲頭数が増えるわけではないと考えられ、マンパワーや効率性が重要となるため、そちらを優先すべきではないか。

⑤ 捕獲の担い手確保について

- ・ 資料6に基づき事務局から説明

【質疑・意見等】

(田原市猟友会) 会場とする蔵王山周辺はイノシシが少なく、獣道を見つけるのが難しい。開催場所を検討してはどうか。

(愛知県) 今後の研修会を計画する際の参考にさせていただく。

(豊橋猟友会) 研修会に先立ち餌付けをしておくことが必要。

わな猟免許の失効が多いのは、毎日の見回りの負担が大きいことが原因だ

と思う。実際に現場近くに住んでいないと見回りは難しい。

(有識者) くくりわなでの捕獲においては、止め刺しが一番重要である、危険性も高い。事故防止のため、講習会で使用方法を説明することが必要である。なお、新規狩猟者は危険性を理解できていない。わなの贈呈をする場合は、特にしっかりと周知すべき。

(愛知県) 止め刺しについても講習会でしっかり説明する。餌付けを用いたくくりわなでの捕獲方法についても説明したい。

(田原市猟友会) くくりわなは電気で止め刺しできない。止め刺しのために銃免許を取得する人が多い状況であるため、危険性をきっちりと教える必要がある。

(愛知県) 今回は初めてのわな講習会であるため、はこわな等についても紹介し、安全についても説明する予定である。

(田原市猟友会) 講義での口頭による説明だけで理解してもらえるのか不安である。

(愛知県) 今回は初めてのわな講習会であるが、くくりわなだけでなく、はこわな等についても、紹介する。ビデオや実物を見せて説明する予定である。

4 その他

(1) 経口ワクチン散布について

- ・ 資料7に基づき野生イノシシ対策室から説明。
内容について質疑

(2) 今後の狩猟に係る防疫措置について

- ・ 資料8に基づき自然環境課から説明
内容について質疑

以上